


# 指導資料

# 特別活動 第22号

 鹿児島県総合教育センター  
令和3年4月発行

対象  
校種

中学校 義務教育学校  
特別支援学校



## 「なりたい学級」を創る — 学級目標達成のための実践を通して —

特別活動の教育課程上の特質は、学習指導要領における位置付けと潜在的カリキュラムとの密接な関わりが相まって、生徒の学校生活を支え、心に残る学級の文化（特色）の創造に寄与することにある。その文化は生徒自身が創造していくが、その指針となるものが学級目標である。本稿では、その目標を達成するための実践を紹介していく。

### 1 学級目標について

新学年が始まる4月。生徒も担任も希望にあふれ、充実した1年に、そして、思い出に残る素晴らしい学級にしようとする学級目標を決める。しかし、学年の終わる3月には生徒は学級目標が何だったか覚えていない。このような経験をした学級担任も少なからずいるのではないだろうか。

学級目標は、生徒と担任がそれぞれの思いや願いをまとめ、目指すべき学級の姿を表現したものである。生徒は年度当初に決定した学級目標の達成を目指し、1年間学級での様々な活動に取り組んでいく。また、担任は学級目標を学級経営の柱に据え、1年間学級への指導を行っていく。

しかし、学級目標の決定の仕方とその後の活動について生徒が主体となるような活動を行わなければ、学級への所属感、連帯感が育まれず、生徒が年度当初に設定した学級目標を達成することができなくなり、「なりたい学級」を創ることができなくなってしまう。また、結果的に生徒が目指した学級文化の醸成は行われなくなってしまう。

そこで、本稿では、学級目標を達成するための実践について紹介していく。

### 2 学級目標決定までの活動

#### (1) 事前活動について

生徒が学級目標を「自分たちの目標」と捉えるためには、学級目標を決定するまでの過程で生徒一人一人が十分に意見を出し合い、議論し、合意形成することが不可欠である。

しかし、学級目標には担任の願いも反映させる必要がある。さらに、学校教育目標、学校の伝統や校風も反映させたい。

以上を踏まえると、学級目標を決定するまでの事前活動として下に示すようなものが考えられる。

#### 学級目標決定までの事前活動（例）

- ① 担任としての新学級に対する願いを聞く。  
(学校教育目標、学校の校風なども含む。)
- ② 「こんな学級になりたい」という思いを生徒一人一人が考える。
- ③ ②を確認するアンケートを実施する。
- ④ アンケートから、学級目標に盛り込みたいキーワードや文章を整理する。
- ⑤ ④を基に学級目標案を作成する。

①は学級開きの際に行う担任の話として聞くことになるが、②～⑤については担任のサ

ポートの下、学級運営委員などが中心となり行っていく。

なお、先に示した学級運営委員については、指導資料特別活動第20号に詳細を示してあるので参考にしてほしい。

#### ア 担任の願い (①)

担任は、学校の教育目標や学校の校風などを意識した上で、学級開きのときに新学級に対する願いをなるべく分かりやすく語り、生徒一人一人に理解してもらう必要がある。

その際、過去に自校の先輩が活動している様子を撮影した動画や、その動画に関連した作文などがあれば、それらを活用することで目指したい学級の姿は伝わりやすくなる。

同時に、このような動画や作文などを活用すれば、学校教育目標や学校の校風についても生徒にイメージさせやすくなる。

以上のように、担任の新学級に対する願いを生徒に十分理解してもらった上で、生徒が学級への思いを考えられるようにする。

#### イ 生徒の考えとアンケート (②, ③)

生徒は、①を踏まえ「こんな学級になりたい」という思いを考える。

そして、その思いを達成するために、どのような学級目標であればよいかを考え、学級運営委員などが準備したアンケートに記入する。このアンケートは、学級目標に入れたいキーワードや文章を生徒が記入できるものとする。

さらに、アンケートは保護者にも実施し、保護者の思いを生徒に伝えることも、生徒の成長には大変有意義である。

#### ウ キーワードや文章等の整理 (④)

③で集めたものを学級運営委員などが集計し、アンケートで示された学級目標に取り入れたいキーワードや文章を学級会で学級全員に紹介する。

そして、紹介されたものを基に学級全員で学級目標に盛り込みたいキーワードや文章を整理していく。

この際、紹介されたキーワードや文章を1枚ずつ小さなカードに書き込み、それらのカードの中から内容の似ているもの同士を集めてグループ化していくKJ法を用いて整理することで、学級目標に用いるキーワードや文章が焦点化されていく。

#### エ 学級目標案の作成 (⑤)

④で整理されたものを基に、学級運営委員会などで学級目標案を話し合い、作成する。

その際、学級運営委員などは「なぜこのような学級目標の案を作成したのか。」を学級全員が理解できるように、十分に考えた上で提案できるようにする。

その際、どうしても一つの案に絞りきれない場合はいくつかの案を作成し、絞りきれなかった理由について説明できるようにしておく。

(2) 学級目標を決定する学級会について  
前述した学級目標決定までの事前活動(例)の⑤で作成された案について、学級運営委員などが提案し、学級目標について決定する学級会を行う。その活動例を下に示す。

#### 学級目標決定のための学級会 (例)

##### 1 活動の開始

- ① 本時の議題及び提案理由を確認する。
- ② 本時の活動の流れを確認する。

##### 2 活動の展開

- ③ 前時でグループ化した学級目標に盛り込みたいキーワードや文章を確認する。
- ④ 学級運営委員が提案する学級目標案とその目標を設定した理由、学級目標を達成するための努力点について説明を聞く。
- ⑤ 提案された学級目標について話し合う。
- ⑥ ⑤を反映させた学級目標について、学級全員で確認をする。
- ⑦ 学級目標を達成するために学級で取り組むべき努力点(具体的な目標)について話し合う。
- ⑧ 努力点について、学級全員で確認する。

##### 3 活動のまとめ

- ⑨ 学級目標とそれを達成するための努力点について再確認し、学級での活動に反映させることを確認する。

⑤、⑥の活動を行う際、挙手の数などによる多数決だけで決定するのではなく、生徒一

人一人が「なぜ、この学級目標がよいのか。」を十分に考え、議論を行った上で合意形成を図り、学級目標を決定していきたい。

また、⑦、⑧のように、学級目標を達成するための努力点（具体的な目標）についても話し合い、決定することができれば、学級目標がより実効性のあるものになると考えられる。

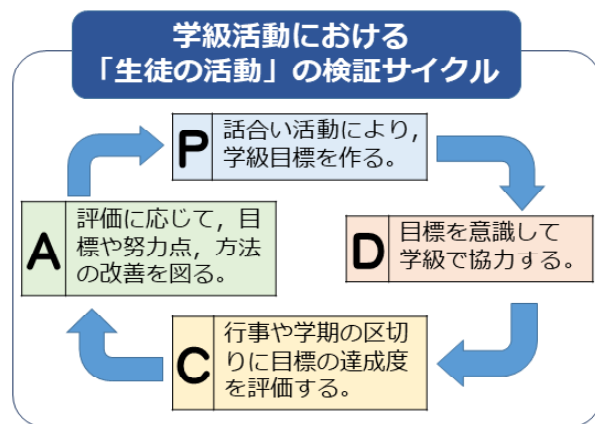
そして、決定した学級目標を黒板の上などに掲示し、生徒がいつでも意識できるようにすることが大切である。

### 3 学級目標を達成するための活動

#### (1) 「生徒の活動」のPDCAサイクル

学級目標は決定することがゴールではなく、それを達成することがゴールとなる。

そこで、学級活動における「生徒の活動」の検証サイクルを基に、生活の区切りや学期ごとにその達成度を評価するとともに、場合によっては目標に修正を加えるようにする。



#### (2) 学期ごとの評価に関する活動の例

議題：学級生活を見直そう（学級活動(1)）

この活動は、自分たちの問題を自分たちで解決しようとする態度を育成し、望ましい学級風土を醸成するため、定期的に行う話し合い活動の一つである。この活動の事前の指導と生徒の活動の例、及びアンケート項目の例については右の段組に示したとおりである。

アンケートは、結果から考察がしやすいよう項目ごとの達成度を1～4の4段階で回答させるようにする。

#### 事前の指導と生徒の活動（例）

- 学級運営委員会で本時の目的を話し、活動までの見通しを確認しながら話し合い活動の計画を立てる。（放課後 学級運営委員会）
- 学級目標を達成するために行動できていたか調べるアンケートを行う。（帰りの会 全体）
- アンケート結果を集計する。（放課後 学級運営委員会）
- アンケート結果から学級で話し合う内容を決める。（放課後 学級運営委員会）
  - ・ 集計結果を視覚的に分かりやすくまとめ、話し合うべき内容を把握しやすくする。
- 本時の予告をする。（帰りの会 全体）

#### アンケート項目（例）

- 1 学級の取組
  - ア 学級目標を忘れずに行動できている。
  - イ 決めたことは最後までやり遂げている。
  - ウ 反省点を見付け、次に生かすことができている。
- 2 自分の取組
  - ア 学級目標を忘れずに行動できている。
  - イ 自分の役割を果たすことができている。
  - ウ 自分の意見をはっきりと言えている。

また、アンケート結果を提示する際には、各項目の達成度の平均値をレーダーチャートなどを用いて表すなど、学級の課題がどの項目に課題があるのか視覚的に捉えやすい方法で提示できるようにする。

#### 本時の活動（例）

- 1 活動の開始
  - ① 開会のことば
  - ② 学級運営委員の紹介
  - ③ 議題及び提案理由の発表・確認  
アンケート調査の結果を報告し、学級の課題がどのアンケート項目に当てはまるか提示する。
- 2 活動の展開
  - ④ 話し合い  
学級生活を見直すための方策を話し合う。  
一人一人が課題意識をもって話し合いに臨むようにする。  
→ 学級ノートやワークシートを活用する。  
意見が出にくいときは近くの生徒と話し、意見をまとめる時間を設ける。
- 3 活動のまとめ
  - ⑤ 決定事項の確認
  - ⑥ 感想記入・発表
  - ⑦ 先生の話
  - ⑧ 閉会のことば

例えば、アンケート項目1ーウ「反省点を見付け、次に生かすことができている。」や2ーイ「自分の役割を果たすことができている。」に課題があった場合、以下のような決定事項が考えられる。

#### 決定項目（例）

##### 1ーウについて

- 学校行事の後に必ず反省をして、次の行事に生かすようにする。

##### 2ーイについて

- 自分が担当している仕事は、責任をもって最後まで行う。
- 取組状況を毎週全員でチェックする。

このような決定事項になった場合、事後の指導と生徒の活動については下のようなものが考えられる。

#### 事後の指導と生徒の活動（例）

##### ○ 実践と振り返り

- ・ 話合いで決めた内容を実践していく。
- ・ 冬休みまでに行われる学校行事の後に振り返りをする。  
→ 体育大会（運動会）や合唱コンクール、球技大会などで学級目標を意識して取り組むよう指導する。
- ・ 一人一人が学級目標を意識して生活できているか確認する。
- ・ 冬休み明けに、学級目標を達成するために取り組んでいるか再び話し合い、実践内容を考える。  
→ PDCAサイクルを活用し、自分たちで学級をよりよくしようという意欲を高める。

##### (3) 担任によるサポート

(1)で示したとおり、生徒は学級目標を達成するために自分たちでPDCAサイクルに基づく活動を行っていく。

そして、担任は生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、活動の意義や価値を実感できるようにする。その際、向上したと思われる生徒の姿と学級目標との関係を具体的に伝えることで、生徒は活動の意義や価値をより実感できるものとする。

また、生徒の学習態度や生活態度を改善するために担任が学級全員に対して語り掛けて指導をする場合では、一方的な指導をするの

ではなく、自分たちの今の姿と学級目標とを比較させることで、学級目標達成のため、自分たちの向上のため、自分たちは何をすべきかを十分に考えさせたい。

このように、担任が学級目標を達成するためのサポートを十分に行えば、年度当初に考えた学級目標を自分たちのものとして常に意識することができ、生徒自身によるPDCAサイクルに基づく活動も充実していくと考えられる。

#### 4 修了式や卒業式に向けて

3で示した「生徒の活動」のPDCAサイクルによる活動が修了式や卒業式の日まで続けられるが、この活動が修了式や卒業式に向けて、より充実していくよう、担任はPDCAサイクルに基づく生徒の活動を肯定しながら十分なサポートをすることが大切である。

そして、修了式や卒業式の日、生徒自身が自ら「なりたい学級を創ることができた」、「学級目標を達成できた」と思えるようにする必要がある。

このように、生徒が主体となって活動し、学級目標を達成するような成功体験を経験することができる。そして、次のステップに向け前向きな姿勢で様々な活動に取り組むことができると考えられる。

このような生徒を育成するためにも、学級目標を達成するための指導を充実させてほしい。

##### —引用・参考文献—

- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』平成29年、東山書房
- 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『特別活動指導資料 学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】』平成28年、東京書籍
- 鹿児島県中学校特別活動研究協議会『学級担任これさえあれば！！特別活動』平成25年
- 鹿児島大学教育学部附属中学校『新たな時代を豊かに生きる生徒の育成～ Society5.0 で求められる資質・能力の育成を目指して～』平成30年、令和元年

（教科教育研修課 内 祥一郎）